

最近の不登校の状況を、文部科学省をはじめとしてWEBサイト等で紹介されているデータを引用・抜粋して作成しています。

■「令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」

（文部科学省初等中等教育局児童生徒課 / 令和3年10月15日）

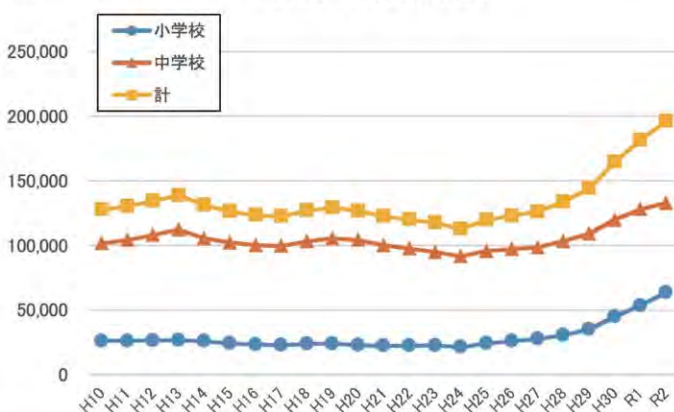
小・中学校の長期欠席（不登校等）の状況

不登校児童生徒数は196,127人（前年度181,272人）であり、不登校児童生徒の割合は2.0%（前年度1.9%）である。

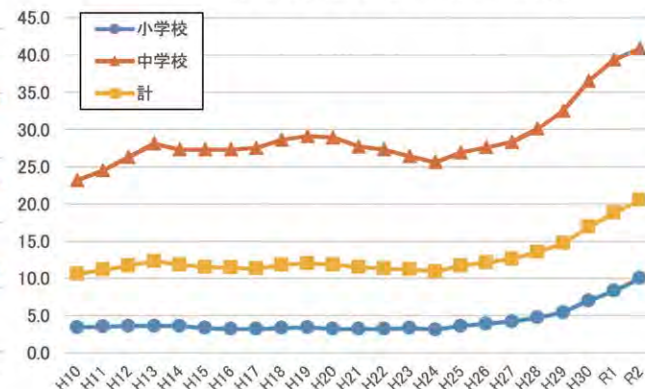
小・中学校における不登校の状況について

小・中学校における長期欠席者のうち、不登校児童生徒数は196,127人（前年度181,272人）であり、児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は20.5人（前年度18.8人）。不登校児童生徒数は8年連続で増加し、過去最多となっている。

（人） 不登校児童生徒数の推移



（人） 不登校児童生徒数の推移
（1,000人当たりの不登校児童生徒数）



不登校児童生徒数（上段）と1,000人当たりの不登校児童生徒数（下段）

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
小学校	26,017	26,047	26,373	26,511	25,869	24,077	23,318	22,709	23,825	23,927	22,652	22,327	22,463	22,622	21,243	24,175	25,864	27,583	30,448	35,032	44,841	53,350	63,350
	3.4	3.5	3.6	3.6	3.6	3.3	3.2	3.2	3.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.3	3.1	3.6	3.9	4.2	4.7	5.4	7.0	8.3	10.0
中学校	101,675	104,180	107,913	112,211	105,383	102,149	100,040	99,576	103,069	105,328	104,153	100,105	97,428	94,836	91,446	95,442	97,033	98,408	103,235	108,999	119,687	127,922	132,777
	23.2	24.5	26.3	28.1	27.3	27.3	27.3	27.5	28.6	29.1	28.9	27.7	27.3	26.4	25.6	26.9	27.6	28.3	30.1	32.5	36.5	39.4	40.9
計	127,692	130,227	134,286	138,722	131,252	126,226	123,358	122,287	126,894	129,255	126,805	122,432	119,891	117,458	112,689	119,617	122,897	125,991	133,683	144,031	164,528	181,272	196,127
	10.6	11.1	11.7	12.3	11.8	11.5	11.4	11.3	11.8	12.0	11.8	11.5	11.3	11.2	10.9	11.7	12.1	12.6	13.5	14.7	16.9	18.8	20.5

※平成10年度調査より不登校児童生徒として調査を行っている。

15

小・中学校における不登校の状況について

不登校の要因

【国公立】小・中学校

	不登校児童生徒数	学校に係る状況								家庭に係る状況			本人に係る状況		左記に該当なし
		いじめ	いじめを除く友人関係をめぐる問題	教職員との関係をめぐる問題	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動、部活動等への不参加	学校のきまり等をめぐる問題	入学、転編入学、進級時の不参加	家庭の生活環境の急激な変化	親子の関わり方	家庭内の不和	生活リズムの乱れ、あそび、非行	無気力、不安	
小学校	63,350	171	4,259	1,187	2,049	153	11	453	1,121	2,408	9,227	1,027	8,863	29,331	3.09
		0.3%	6.7%	1.9%	3.2%	0.2%	0.0%	0.7%	1.8%	3.8%	14.6%	1.6%	14.0%	46.3%	4.9
中学校	132,777	228	16,571	1,226	8,626	1,428	772	1,061	5,412	3,259	8,168	2,456	14,576	62,555	6.43
		0.2%	12.5%	0.9%	6.5%	1.1%	0.6%	0.8%	4.1%	2.5%	6.2%	1.8%	11.0%	47.1%	4.8
合計	196,127	399	20,830	2,413	10,675	1,581	783	1,514	6,533	5,667	17,395	3,483	23,439	91,886	9.52
		0.2%	10.6%	1.2%	5.4%	0.8%	0.4%	0.8%	3.3%	2.9%	8.9%	1.8%	12.0%	46.9%	4.9

※1 「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した児童生徒全員につき、主たる要因一つを選択。

※2 下段は、不登校児童生徒数に対する割合。

少子化が進む中で増加する不登校の子どもの実態を把握すべく、文部科学省が定義する不登校児童生徒に加え、学校に馴染んでいないと思われる子どもたちの実態について調査を実施。

調査は、2018 年 10 月に中学生年齢の 12 歳～15 歳合計 6,500 人を対象にインターネットで行いました。その結果、「年間 30 日以上欠席の不登校である中学生」は約 10 万人、「不登校傾向にあると思われる中学生」は 10.2%の約 33 万人に上ることがわかりました。不登校である中学生約 10 万人は文部科学省が各学校、教育委員会からの回答を基に集計して、毎年実施している調査でも明らかとなっていますが、「不登校傾向にあると思われる中学生」の数はその 3 倍にも上ることが初めて明らかになりました。

今後の不登校対策に大きな意味を持つ数字と思われます。このほか、学校に馴染むことができない理由として、「授業がよくわからない」、「授業内容以外に追求したいことがある」などの意見が目立ちました。

不登校の理由として「先生とうまくいかない」という項目に対して、約 4 割もの生徒が選択をしています。また文科省の調査では家庭内の理由が上位にあります。日本財団の調査では上位にありません。

日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査
調査結果概要



- 不登校傾向にある中学生（年間欠席数は30日未満）は、全中学生約325万人の10.2%にあたる約33万人で、文部科学省が調査した不登校中学生の数の約3倍。約10人に1人が不登校傾向。
【6頁：本調査】
- 中学校に行きたくない理由について、身体的症状以外の要因では「授業がよくわからない」「良い成績がとれない」「テストを受けたくない」など、学習面での理由がみられた。
【10頁：本調査】
- 学びたいと思う環境は、「自分の好きなことを突き詰めることができる」場所、「自分の学習のベースにあった手助けがある」場所、「常に新しいことが学べる」場所など。
【12頁：追跡調査】

3
Copyright(c) 2018 The Nippon Foundation

日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査
文部科学省調査（児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査）との違いイメージ



- 学校ではなく、子どもから実態を調査。
- 不登校傾向にある中学生（年間欠席数は30日未満）は約33万人と推計。

全中学生数：約325万人
(平成30年度学校基本調査)

30日以上欠席している
生徒（不登校） 10万人

文部科学省調査
(学校、教育委員会による回答)

⑥登校

⑤仮面登校B：授業参加型
基本的には教室で過ごし、皆と同じことをしているが、心の中では学校に通いたくない・学校が辛い・嫌だと感じている子ども（毎日）

④仮面登校A：授業不参加型
基本的には教室で過ごす、誰とは違うことをしている子ども（月2～3回以上、または1週間続けて）

③部分登校
基本的には教室で過ごす、授業に参加する時間が少ない子ども（遅刻早退が1か月に5回以上など）

②教室外登校
学校の校門・保健室・校長室等には行くが、教室には行かない子ども

①-2不登校：文科省定義外の不登校
学校に行っていない状態が一定期間ある子ども（30日未満欠席）

①-1不登校：文科省定義の不登校
学校に行っていない状態が一定期間ある子ども（30日以上欠席）

33万人

10万人

日本財団調査
(中学生が回答)

4
Copyright(c) 2018 The Nippon Foundation

日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査
学校生活をめぐる子どもの特徴（タイプ）6群



①-1	不登校	学校に行っていない状態が一定期間以上ある 【主な特徴】年間30日以上（文科省定義内）学校に行っていない	30日以上 欠席	10万人
①-2		学校に行っていない状態が一定期間以上ある 【主な特徴】1週間以上連続（文科省定義外）など一定程度学校に行っていない	1週間以上 連続欠席	
②	教室外登校	学校の校門・保健室・校長室等には行くが、教室には行かない 【主な特徴】保健室登校、図書室登校、校長室登校、校門登校など 頻度：「月2～3回以上、もしくは1週間続けて」		
③	部分登校	基本的には教室で過ごす、授業に参加する時間が少ない 【主な特徴】給食登校 遅刻や早退が多い。頻度：「1か月に5日以上」 1日に何度も、一時的に保健室などで過ごす		
④	仮面登校A 授業不参加型	基本的には教室で過ごす、皆とは違うことをしがちであり、授業に参加する時間が少ない 【主な特徴】授業がつまらない、または授業内容とは別に追求したい・学びたいことがある 頻度：「月2～3回以上、または1週間続けて」		
⑤	仮面登校B 授業参加型	基本的には教室で過ごし、皆と同じことをしているが、心の中では学校に通いたくない・学校が辛い・嫌だと感じている 【主な特徴】行動表出なし。頻度：「毎日」		
⑥	登校	学校に馴染んでいる		

学校内で
行動表出

33万人

学校内で
行動非表出

5
Copyright(c) 2018 The Nippon Foundation

54

■「不登校」の定義

平成 4 年開催の学校不適応対策調査研究協力者会議において、不登校(登校拒否)について、次のように定義され、学校基本調査でもこの定義が用いられています。

「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあること(ただし、病気や経済的な理由によるものを除く)をいう」

不登校は、学校基本調査において、年度内に 30 日以上欠席した児童生徒を長期欠席者として、その欠席理由を「病気」「経済的理由」「学校ざらい」「その他」に区分して調査していましたが、その後「不登校」という用語が一般的に使用されるようになり、平成 10 年度から、「学校ざらい」が「不登校」に名称変更されました。

■知っておきたい不登校に関連する法律、文科省のガイドラインなど (それぞれの名称で WEB 検索できます)

○生徒指導・進路指導に関する施策等について(文部科学省初等中等教育局 児童生徒課 / 令和 3 年 2 月)

※文科省初等中等教育局の最新の「まとめ」スライドです。

○不登校児童生徒への支援の在り方について(通知)(元文科初第 698 号 / 令和元年 10 月 25 日)

《関係報告等》

- ・「不登校児童生徒への支援に関する最終報告～一人一人の多様な課題に対応した切れ目のない組織的な支援の推進～」(平成 28 年 7 月 不登校に関する調査研究協力者会議)
- ・「児童生徒の教育相談の充実について～学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくり～(報告)」(平成 29 年 1 月 教育相談等に関する調査研究協力者会議)
- ・「不登校児童生徒による学校以外の場での学習等に対する支援の充実～個々の児童生徒の状況に応じた環境づくり～(報告)」(平成 29 年 2 月 フリースクール等に関する検討会議)
- ・「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律の施行状況に関する議論のとりまとめ」(令和元年 6 月 不登校に関する調査研究協力者会議、フリースクール等に関する検討会議、夜間中学設置推進・充実協議会)
(別記 1)義務教育段階の不登校児童生徒が学校外の公的機関や民間施設において相談・指導を受けている場合の指導要録上の出欠の取扱いについて
(別添 4)教育支援センター整備指針(試案)

○不登校重大事態に係る調査の指針について(通知)(27 文科初第 1576 号 / 平成 28 年 3 月 11 日)

○子供の自殺が起きたときの 背景調査の指針(改訂版)(児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議 / 平成 26 年 7 月 1 日)

○いじめ防止対策推進法(平成 25 年法律第 71 号)

○いじめの重大事態の調査に関するガイドライン(文部科学省 / 平成 29 年 3 月)

○いじめの防止等のための基本的な方針 文部科学大臣決定(最終改定 平成 29 年 3 月 14 日)

○いじめ防止対策推進法で定められた、各地方公共団体(市区町村)及び各学校が策定している「いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針」

※「いじめ基本方針」など、名称はそれぞれ違います。

相談

- 向日市教育委員会 「教育相談」
対象：市内在住の児童、生徒や保護者
相談日：火曜日、木曜日 10:00～15:00（要予約）
tel. 075-931-1111（代表）
スクールホットライン tel. 075-931-6060（直通）
- 長岡京市教育支援センター 「教育相談」
対象：市内在住の小、中学生とその保護者
相談日：月～土 9:00～17:00（要予約）
tel. 075-963-5533（相談専用ダイヤル）
- 京都府総合教育センター 「電話教育相談」
毎日24時間対応
tel. 075-612-3268 / 075-612-3301 / 0773-43-0390
- 長岡京市立あったかふれあいセンター
開館日：月～土（日・祝・年末年始除く） 10:00～16:00
※ 相談については土曜日のみ（予約制）です
長岡京市天神2丁目16-2 tel. 075-963-5555
- 放課後等デイサービス 京都西の丘教育相談センター
向日市寺戸町殿長11 tel. 075-921-8700
- 支援塾 コスモス（代表 米澤るみ）児童発達支援・不登校支援・保護者カウンセリング
長岡京市天神4丁目11-19 tel. 090-1411-5088
- 精神保健福祉士事務所 教育と人間関係の相談室カンナ（代表 木下秀美）
向日市寺戸町渋川22 三恵マンション203号室 tel. 075-925-7960



適応指導教室（在籍の学校に相談していただいた上、連絡してください）

- 向日市「ひまわり広場」
教育委員会教育部学校教育課 tel. 075-931-1111（代表）
- 長岡京市「アゼリアひろば」
長岡京市教育支援センター tel. 075-963-5516
- 大山崎町「たけのこ教室」
大山崎町役場 tel. 075-956-2101（代表）

居場所

- 来迎寺 寺子屋（子どもの学習支援と居場所）
向日市寺戸町中垣内27 tel. 075-921-0343
- NPO つくしクラブ
長岡京市粟生川久保2-7 tel. 075-953-0383
- NPO 法人 おとくにパオ
長岡京市開田4丁目1-12 西和荘1F2号 tel. 075-955-4366

親の会

- 子どもと共に育つ親の会「フェリーチェ」
- 子どもの学びを支える親の会「すぷらうと」
- 子どもと親のそだちを語る会「そだちカフェ」 tel. 090-3972-6830（タケヤマ）

乙訓不登校を考える親の会「大地」運営規約

第1条(会の目的)

本会は、以下4つの場となることを目的とする。

1. 子どもが不登校・ひきこもりになったという同じ境遇の保護者や家族がお互いを尊重し、安心して悩みを相談・交流し合う居場所とする。
2. 子どもも家族もひとりの人間として、「自分らしい生き方」を見つけ、支え合う場とする。
3. 不登校の背景となっている社会状況を学び理解し、様々な情報を共有し、地域に向けて発信する。
4. 不登校に関する乙訓地域での専門職・支援者・関連機関等とのネットワーク作りや親の会としての子どもの居場所について考える場とする。

第2条(名称)

この会の名称を乙訓不登校を考える親の会「大地」とする。

第3条(事務局所在地)

この会の事務局を代表宅に置く。

第4条(会員)

現在もしくは過去に不登校・ひきこもりであった当事者やその家族、子どもに関する専門職や支援者であることを参加の条件とする。

第5条(役員)

この会に以下の役員を置く。

代表1名 副代表兼事務局1名 会計1名 監査1名

第6条(役員の任期)

役員の任期は1年とし、再任を妨げない。

第7条(総会)

本会の総会は、正会員を持って構成し、毎年1回開催するものとする。ただし、必要がある時は、臨時総会を開催することができる。

2. 総会は次の次号に掲げる事項について審議し、決定する。

- ・ 規約、事業等の改廃
- ・ 事業計画並びに収支予算及び決算
- ・ 本会の解散
- ・ 役員の選任及び解任
- ・ その他本会の運営に関し重要な事項

第8条(運営)

本会は第1条の目的を達成するために、次の各号に該当する活動(事業)を実施する。

- ・ 月1回定例会を開催する。
- ・ うち1回を特別定例会とし、一般を対象とした講演会などを開催する。
- ・ 必要に応じて、関連機関との連携・情報交換を行い、地域における子育てネットワーク作りに寄与する。
- ・ その他、本会の目的を達成するために必要な事項

第9条(会費)

正会員: 2,000円/年(7月以降の入会は1,000円)

賛助会員: 1,000円/年

ビジター会員: 定例会参加する毎300円

第10条(規約改正)

この規約は、会員の過半数の同意をもって改正することができる。

附則

- ・ この会則は、2018年1月1日から施行する。
- ・ この会の設立年月日は2016年12月1日

『僕は僕』（『大地』のうた）

作詞：木下秀美 作曲：木下秀美

僕は僕を生きて行く
君は君を生きてやれ

1. 空に輝く星たちは
自分の位置を知っている
海を渡る鳥たちは
地図もないのに進んでく

いろんな期待もわかるけど
動けなかったんだ
なぜかわからないけれど
考えることが苦しかった

ただ わかってほしい（あなたに）
ただ 愛してほしい（ずっと）
それだけ それだけなんだよ

2. あなたが一人過ごす時間は
あなたに与えられたもの
十人十色 百人百様
千差万別 森羅万象

不安じゃない人っていないはず
大人だってそうだもの
みんな違って良いんだし
違うからこそ素敵だよ

答えはまだ ないけど
何かが見えてるわけじゃない
それでも それでも良いから

3. 家にずっといたいわけじゃない
行きたいところがあれば行くかもね
会いたい人が見つければ
僕はきっと会いに行く

今日の予定は？って聞かないで
明日の予定も聞かないで
わからないから苦しくて
でもあきらめたわけじゃない

ただ わかってほしい（あなたに）
ただ 愛してほしい（ずっと）
それだけ それだけなんだよ

空に輝く星たちは
自分の位置を知っている
海を渡る鳥たちは
地図もないのに進んでく

僕は僕を生きて行く
君は君を生きてやれ

僕は僕を生きて行く
君は君を生きてやれ

©HIDEMI KINOSHITA 2019



こちらから視聴いただけます ▶▶▶
<http://youtu.be/WmSYOcbmvrw>



僕は僕
『大地』のうた
作詞・作曲：木下秀美

大地定例会のご案内

様々な理由をきっかけに、学校に行けなくなったお子さんがいらっしやる保護者のみなさん！
私たちは、そんな悩みをもつ保護者がお互いを尊重し、安心して語れる、そんな居場所を作りました。
子どものこと、学校のこと、自分自身のことを話して、不登校という状態について、いっしょに考えてみませんか？

友だちとの付き合いがうまくいかない…
授業中、騒がしくて落ち着かない…
勉強についていけない…
毎日、宿題、塾などの習い事で忙しくて疲れている…
など



当会では、
『教育と人間関係の相談室カンナ』
代表 木下秀美さん
（認定精神保健福祉士、自閉スペクトラム支援士）に、
アドバイザーとして参加して頂いています。

- ★ 毎月第3日曜10時～12時
- ★ 会場：向日市寺戸公民館1F 和室
- ★ 参加費：300円（お茶代）＜会員は無料：年会費2,000円＞

参加希望の方は、氏名、連絡先電話番号、お子さんの年齢・学年を記入の上、
右のアドレスまでご連絡ください。 otokunifutoukoudaichi@yahoo.co.jp



←line@乙訓不登校を考える親の会『大地』に登録して頂きますと、定例会のご案内などの情報をお届けします。
情報発信のみなので、トークはできません。また、個人情報はこちらには知らされることはありません。

編集後記



大地を立ち上げた時は、単純に「不登校の子どもがいる家族の居場所になれば」という思いだけでした。それが、2年目を迎えた頃から参加者が増え、定例会だけでは話さきれないし、もっと交流したいよねという気持ちから、学習会や飲み会から始まり、そして子どもたちも参加できるタコバ、バーベキュー、流しそうめんとイベントを行ったり、お祭りに出店したりするようになりました。それと並行して、子どもたちの居場所が大地の会員さん発信から、地域の方でもでき、子どもたちの交流の場が充実し始めました。活動報告を作成しながら、この5年の歳月の中で、たくさんの不登校の子どもたちとその家族の方たちと出会ってきたなぁと思い出していました。

そして今回、そうしたみなさんのご協力でもって『大地の5周年記念誌』ができあがりました。本当にみなさんの気持ちのこもったあったかい記念誌になったと嬉しく思っています。(MC)

記念誌作成中、体調を崩したりで実行委員会にもあまり参加できませんでしたが、作成のため、歩んできた道を振り返ることで、自分を整理するきっかけを頂きました。子どもの生き方のお陰で、繋がりが合った仲間の温かさを感じる私は、心からみんなにありがとうの花を贈りたいです。

そして、一人でも多くの子どもたちや親が笑顔で過ごせますように。この記念誌が手に届くことを願っています。(GY)

仕事も"親"も、何をやっても半端者の私ですが、大地の皆さんに受け入れていただいたおかげで、こうして仲間に加わられた事、それをカタチに残せた事、とても嬉しく思います。ありがとうございます。(HN)

実行委員を通し我が子たちと時を置き、再び向き合う時間を持たせてもらったこと、ありがたく思っています。

子どもたちはそれぞれ今の目標に向けて動き出しています。長男は希望する就職が決まり、大変だった小、中時代を思うと社会に出すという私の最終目標達成で感慨もひとしおです。この度の当事者へのアンケートには、「少し先の未来を考えて今の行動をとること。考えることを面倒くさげず癖づけること。」と、大人の私にも刺さる回答をしてくれました。

『大地』が誕生し、見守られながら過ごした五年間の子どもたちの成長をととても嬉しく思います。そして私自身もまた成長させてもらいました。関わってくださった皆さまに感謝します。ありがとうございました。(KM)

記念誌の作成をすすめていくなかで話を聞いてくれる人がいること、話す場所があることの大切さを改めて感じました。『大地』がお互いを尊重し支え合いながら交流できる、心安らぐ場であり続けるよう願っています。

私自身活動を通じて出会った仲間、支えてくださる方々には感謝の思いでいっぱいです。いつもありがとうございます、これからもよろしくお願い致します。(OM)

記念誌作成の実行委員に参加して初めて『大地』がどのように立ち上げられたかを知りました。そして皆さんのあたたかい思いが今の『大地』の活動に繋がっているのだと感じました。

私が『大地』に参加して『大地』の仲間からもらった沢山の優しさと、子どもたちの思いの込められた記念誌作りに参加できたことをうれしく思います。この思いが記念誌を通して伝わることを願っています。(FM)

会員のみなさんに書いて頂いた原稿は、今見返してもそれぞれのご家庭、お子さんの日々がありありと目に浮かび胸が熱くなります。

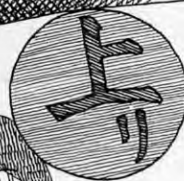
マイナスイメージが強い「不登校」ですが、大地の仲間と共にその周辺を掘り下げ子どもたちを固定概念から外して見つめると、なんて素晴らしい感性を持った子たちなんだ！と気付くことができます。そしてその子どもたちのおかげで親は気付きや成長をさせてもらっているように思います。

この記念誌を作成するにあたり、私自身も普段聞きにくい我が子の気持ちを聞く機会が得られ、改めて成長を感じることができました。まだまだ渦中の親としても、この記念誌はとても心強く、親御さんや子どもたちの素直な想いに共感し、励まされるものになったと思います。たくさんの方々にこの記念誌を届けたいです。

作成にあたりご協力頂いた方々、会員のみなさま、記念誌実行委員の方々に御礼申し上げます。(KA)



乙訓不登校を考える親の会『大地』5周年記念誌実行委員会



祝 大地5周年
記念誌 発刊

5周年を
迎えられて
よかったね

F/30 (2018) 中学1年

	授業日数	欠席	出席	遅刻	テスト
1学期	69	11	58	0	受
2学期	80	20	60	12	受
3学期	51	44	7	5	受

アル会員様ノオ子サンノリアルナ
記録デス。

欠席、遅刻ヲシナガラモ 何トカ
テストハ 受ケテイラッシャッタ ソウデス。

R1 (2019) 中学2年

	授業日数	欠席	出席	遅刻	テスト
1学期	67	36	31	28	受
2学期	82	68	14	13	／
3学期	37	37	0	0	／

2019.9.7 不登校フォーラム
ニ参加後、大地ノ会ニ来ラレレ
ヨウニナリマシタ。



「大地ノ会ニ 出会エタ後 ダカラ
コノ状況デモ 耐エラレタノカモ…」

R2 (2020) 中学3年

	授業日数	欠席	出席	遅刻	テスト
1学期	47	41	6	0	／
2学期	89	77	12	0	／
3学期	45	40	4	0	／

中学卒業後ハ 自分ノペースデ
通信制高校ヘ 通ッテオラレマス。

2021年 大地5周年
記念誌を作成するため
実行委員会 発足
★ アンケートの実施
6月 大地の新聞
「そのままでええねん」第1号発行

今回のテーマは
「不登校とゲーム
について」です



2020年
8月
小山ファームの草抜き
10月
小山ファームにて 秋の
おはれ振りと 青空卓球

木下先生
ギター弾き語り
今年で44年!!

2020年
7/19 定例会後
『学校から見える不登校
—元校長先生と いっしょに
考えよう—』の開催
8/1 来迎寺 寺子屋さん
イベントに参加

2020年
4月・5月 コロナのため
定例会 2回 お休み



2019年
7/15 来迎寺での定例会で
大地の歌『僕は僕』が
発表される
7/21 流しうめん @ 来迎寺
♪ 竹で手作り!!

2019年
9/8 第3回 特別定例会
乙訓 不登校 フォーラム 開催
11月 社協まつりに出店
全10回の準備会を経て 当日は
子どもたちも参加
★ 手作りクリスマスオーナメントの販売
「ヤギリング」 皿まわし体験コーナーなど

2018年
9/18 第2回 特別定例会
乙訓 不登校 フォーラムを開催
★ 不登校体験者にその時何を思っ
ていたか 語ってもらうことに
10/3 「あらぐさひびき」に出店
12/16 ランチ親睦会&ワークショップ
「子どもの居場所」とは

2018年 7/1
親子親睦会 @ 来迎寺
たこやきとみたらし団子を作て
食べたり、カードゲームをして
交流を楽しむ



2018年 1/23
子育てシンポジウム
『悩んでも ええねん それが子育てできている
証拠』を 他3団体(親の会)と
共同で開催する

2016年 12月より
月に1度 第3日曜日に
定例会を開く
@ 向日市寺戸公民館

2017年 9/17
第1回 特別定例会の開催
★ 講演『不登校・ひきこりの
子どもへの家族としての関わり方』
講師に 高垣 忠一郎先生を
お呼びする

2017年 12月
大地1周年記念ランチ会で 子どもたちが参加
できる交流イベントがあれば…の声がある



のちに
子どもたちの
居場所として
「卓球クラブ」や
「ただのこが」
発足しますよ

2016年 12/1
大地の会誕生

会の名称は
出身校の校歌から
とったそうです



『親の会』を
作ろうかしら

不登校で悩んでる
人たちが相談しあえ
る場が、乙訓にあ
ればいいのに…

いいも

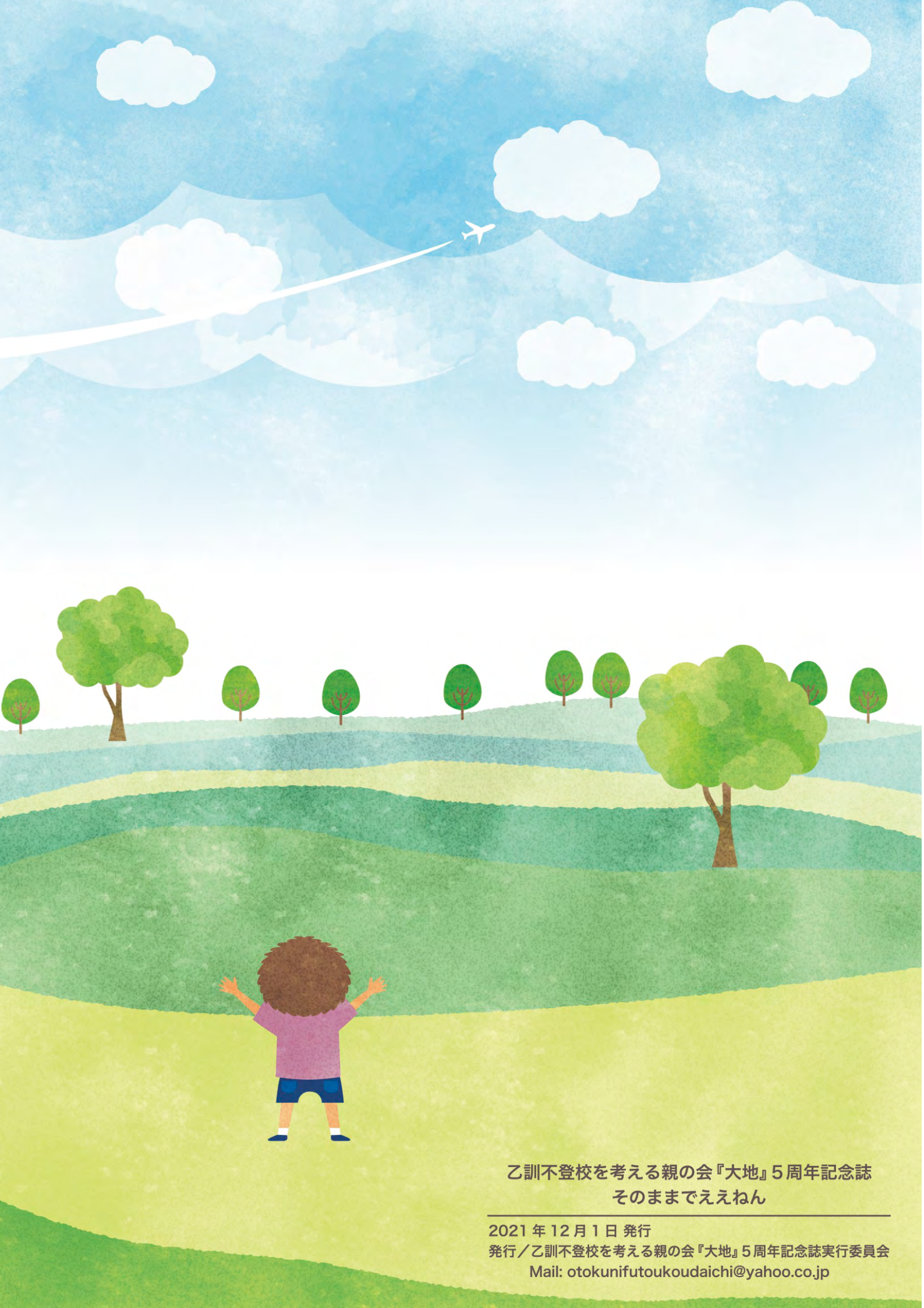


旧友との久しぶりの再会。
子どもが学校に行けない悩みを
互いに抱えていることが
わかったよ。

振出し

大地の会 双六





乙訓不登校を考える親の会『大地』5周年記念誌
そのままでええねん

2021年12月1日発行

発行／乙訓不登校を考える親の会『大地』5周年記念誌実行委員会

Mail: otokunifutoukoudaichi@yahoo.co.jp